

巻頭言

—基礎研の未来—

2017年度の基礎研第5回年次例会は、2018年2月17日に成功裏に開催することができ、日本全国から若手研究者を中心に多くの方々にご参加いただきました。参加していただいた皆様と基礎研年次例会にご協力いただいた先生方に、この場を借りて改めて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

時の流れというものは早いもので、2013年度の基礎研設立から今年度で6年目を迎えました。当時大学院生で設立に携わっていたメンバーは、そのほとんどが今は運営委員から外れ、現在は、私を含め基礎研設立後に参加した大学院生が中心になって運営しています。もちろん、設立メンバーの先輩方には年次例会の会場の手配等といった形で、ご協力いただいております。いずれにせよ、基礎研は世代交代を果たしました。6年の歳月が経ち、基礎研の雰囲気も大きく様変わりました。その一つが、週例会に参加する人数が少なくなったことです。私がまだ博士前期課程の大学院生として参加していた2014年度及び2015年度は、週例会には多い時で20人を超える参加者がおり、少ないときでも15人以上は参加していました。私が博士後期課程に進学した2016年度は、週例会に参加する10名以上いたものの、私が部会長に就任した2017年度は10人を切りました。2018年度はかろうじて10人を変える参加者がおりますが、今後どうなるかはわかりません。

そこで、私は部会長として一つの決断をしました。それは、これまで毎年開催してきた年次例会を2018年度は開催しないということです。年次例会は日本全国から多くの方々に参加していただきご好評を頂いています。年次例会は、毎年度末の2月頃に開催していますが、その準備は5月頃からはじめ、プログラムの内容や会場の手配、基調講演の先生を誰にするか等、学位論文を書き上げることが最優先される大学院生にとって年次例会の準備は大きな負担となります。基礎研に参加する人数が減少している現状に鑑みると、今年度は開催をやむを得ず中止せざるを得ないという判断をいたしました。基礎研の年次例会を楽しみにしていただいていた皆様、申し訳ございません。

設立当初の基礎研の雰囲気を知っている人から見れば、現在の基礎研(特に週例会)は、やや落ち着いてしまった印象を受けるかも知れませんが、決してそうではありません。人数が少なくなったにせよ、基礎研に参加している人達は皆、学習意欲が旺盛な人達ばかりです。今後も週例会の開催を中心に邁進してまいりますので、お引き立てのほど、よろしく願いいたします。

西村 嘉人

名古屋大学大学院国際開発研究科博士課程後期課程
外国語教育メディア学会中部支部外国語教育基礎研究部部会長
日本学術振興会特別研究員-DC2